

鹿児島湾から得られたマハタモドキ

畑 晴陵¹・本村浩之²

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究所

² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

ハタ科マハタ属魚類 *Epinephelus* は日本から 43 種が報告されている (瀬能, 2013; 藤原ほか, 2015). そのうち *E. octofasciatus* (Griffin, 1926) は, Katayama (1975) によって沖縄島と伊豆諸島須美寿島から得られた 2 個体にに基づき日本から初めて報告されると同時に和名マハタモドキが提唱された. 現在, マハタモドキは南アフリカから日本とマルケサス諸島にかけてのインド・太平洋に分布することが知られ, 日本国内においては伊豆諸島八丈島, 小笠原諸島, 和歌山県白浜, 大隅諸島種子島, 沖縄島, および八重山諸島と那国島から記録されている (Katayama, 1975; 石川, 2010; 三浦, 2012; 瀬能, 2013; Koeda et al., 2016; 鍋木, 2016).

2015 年 9 月 15 日, 鹿児島県指宿市山川港沖でマハタモドキと同定される 1 個体が採集された. 本標本は鹿児島県本土における本種の初めての記録となるため, ここに報告する.

材料と方法

計数・計測方法は Randall and Heemstra (1991) にしたがった. 標準体長は体長と表記し, 体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm までお

こなった. マハタモドキの生鮮時の体色の記載は, 固定前に撮影された鹿児島湾産の標本 (KAUM-I. 78728) のカラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている. また, マハタモドキの学名は瀬能 (2013) にしたがって, *Epinephelus octofasciatus* とした.

結果と考察

Epinephelus octofasciatus (Griffin, 1926)

マハタモドキ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 78728, 体長 253.1 mm, 鹿児島県指宿市山川港沖 (32°12'N, 130°38'E), 2015 年 9 月 15 日, 釣り (鹿児島市中央卸売魚類市場にて購入), 畑 晴陵.

記載 背鰭条数 XI, 14; 臀鰭条数 III, 9; 胸鰭軟条数 18; 腹鰭条数 I, 5; 有孔側線鱗数 63; 縦列側線鱗数 110; 鰓耙数 8 + 15 = 23. 体各部測定値の体長に対する割合 (%): 体高 40.0; 体幅 16.1; 頭長 41.8; 吻長 12.1; 眼窩径 6.6; 眼隔域幅 8.2; 眼下骨幅 4.1; 上顎長 19.9; 尾柄高 12.0; 尾柄長 17.4; 背鰭前長 38.1; 臀鰭前長 70.6; 腹鰭前長 39.5; 背鰭基底長 57.6; 背鰭第 1 棘長 5.8; 背鰭第 2 棘長 12.7; 背鰭第 3 棘長 14.1; 背鰭最長軟条 (第 6 軟条) 長 17.4; 臀鰭基底長 17.9; 臀鰭第 1 棘長 4.1; 臀鰭第 2 棘長 8.9; 臀鰭第 3 棘長 11.1; 臀鰭最長軟条 (第 4 軟条) 長 17.7; 尾鰭長 24.2; 胸鰭長 25.4; 腹鰭長 20.7; 腹鰭棘長 13.1.

体は前後方向に長い長楕円形でやや側扁し, 尾

Hata, H., and H. Motomura. 2017. First record of *Epinephelus octofasciatus* (Perciformes: Serranidae) from Kagoshima Bay, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 43: 105–109.

✉ HH: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k2795502@kadai.jp).

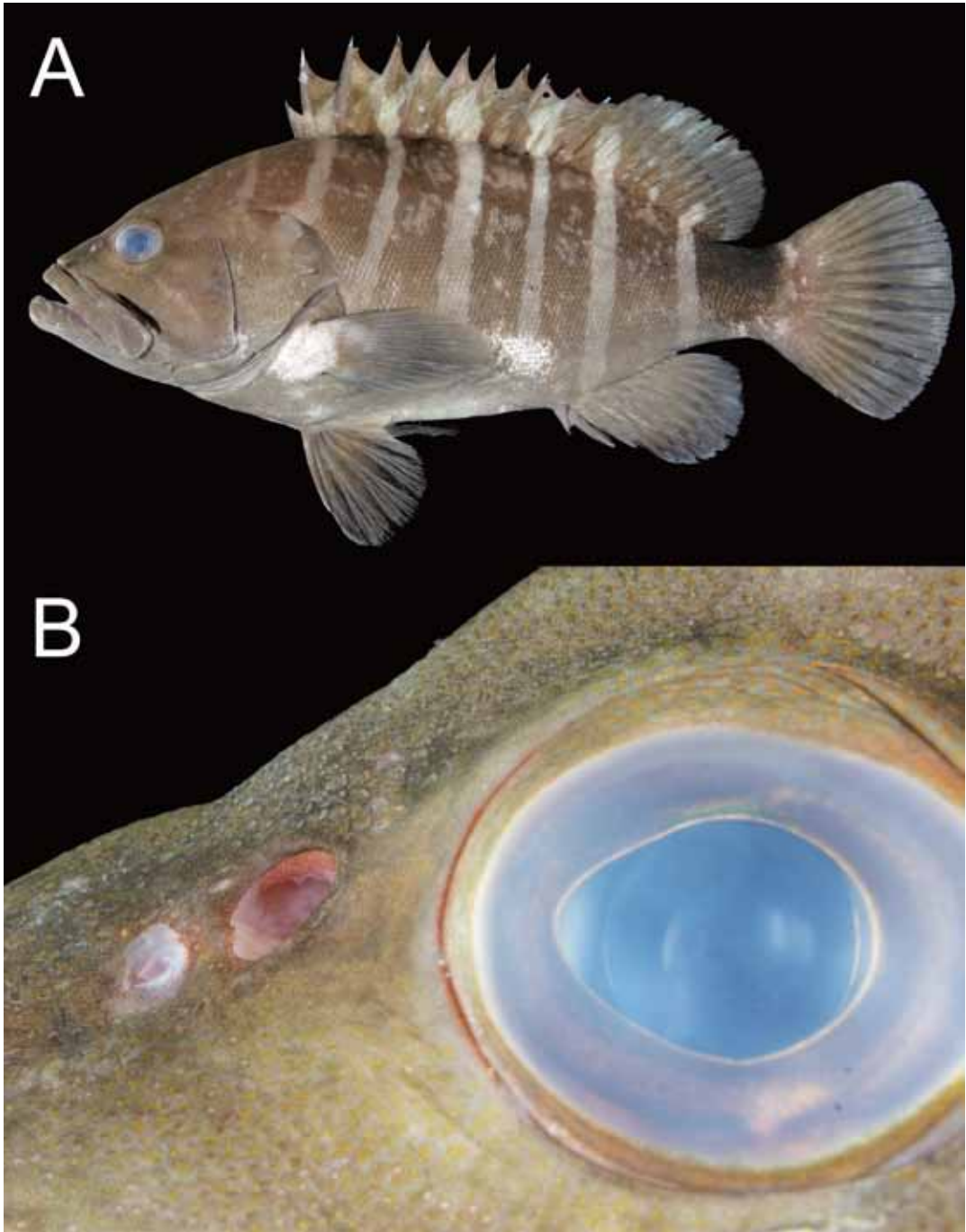


Fig. 1. Lateral views of (A) body and (B) nostrils of fresh specimen of *Epinephelus octofasciatus* (KAUM-I. 78728, 253.1 mm SL, Yamagawa, Kagoshima Bay, Kagoshima Prefecture, Japan).

柄部は強く側扁する。体幅は胸鰭基部付近で最大。体高は背鰭第4棘起部で最大。体背縁は上顎

先端から背鰭第4起部にかけて盛り上がり、そこから尾鰭基底上端にかけて極めて緩やかに下降す

る。体腹縁は下顎先端から腹鰭起部にかけて緩やかに下降し、そこから尾鰭基底下端にかけて緩やかに上昇する。背鰭起部は鰓蓋後端よりも前方、背鰭基底後端は臀鰭基底後端よりも後方にそれぞれ位置する。背鰭各棘間の鰭膜は切れ込む。背鰭軟条部外縁は丸みを帯びる。背鰭第1軟条は背鰭最後棘である第11棘より長い。背鰭軟条は第6軟条が最長。胸鰭基底上端は背鰭起部よりも僅かに後方、胸鰭基底下端は背鰭第2棘起部よりも後方にそれぞれ位置する。胸鰭後縁は丸く、後端は背鰭第9棘起部直下に達する。腹鰭起部は胸鰭基底下端より前方、腹鰭基底後端は背鰭第3棘起部直下にそれぞれ位置する。腹鰭最後の軟条は体と鰭膜でつながる。ただ腹鰭後端は背鰭第7棘起部直下に達するが、肛門には達しない。臀鰭起部は背鰭第11棘起部直下、臀鰭基底後端は背鰭第10軟条起部直下に位置する。臀鰭棘は第3棘が、臀鰭軟条は第4軟条がそれぞれ最長。尾鰭は円形を呈し、後縁中央部は後方に膨出する。肛門は体の中央より後方、臀鰭起部前方、背鰭第9棘起部直下に位置し、正円形を呈する。眼と瞳孔はともに前後方向に長い楕円形。鼻孔は2対で前鼻孔と後鼻孔は互いに近接し、眼の前縁前方に位置する。前鼻孔は正円形、後鼻孔は前後方向に長い楕円形をそれぞれ呈し、前鼻孔後縁に皮弁をそなえる。後鼻孔の最大径は後鼻孔の後縁から肉質眼窩の前縁の最短距離よりも大きい。口は端位で口裂は大きく、上顎後端は眼の後端直下よりも僅かに前方に位置する。両唇は厚い。前鰓蓋骨後縁は細かな鋸歯状を呈し、下縁は円滑。前鰓蓋骨隅角部に1棘をそなえる。鰓蓋後縁は円滑。鰓蓋上部に3棘をそなえる。体は細かく剥がれにくい円櫛鱗に被われるが、両唇、胸鰭腋部は無鱗。側線は完全で、鰓蓋後部上方から尾鰭基底部にかけて体背縁と並行にはしる。側線管開口部は単一。上顎、鋤骨、口蓋骨、および下顎には小円錐歯が密生し、絨毛状を呈する。鰓耙は細長く、先端は丸みを帯びる。鰓弁は細長い糸状。

色彩 生鮮時の体色 体は一様に焦げ茶色を呈し、体腹面は淡い茶褐色。尾柄部は黒褐色。項部から背鰭基底後端にかけて7本の白色横帯がは

いる。各鰭は一様に淡い茶褐色。閉口時、主上顎骨によっておおわれる部分は黒褐色。虹彩は淡い茶褐色を呈し、瞳孔は青みがかった黒色。

分布 南アフリカから日本とマルケサス諸島にかけてのインド・太平洋に広く分布するが、紅海、ベンガル湾からフィリピン諸島にかけての海域からは報告されていない (Randall and Heemstra, 1991; Heemstra and Randall, 1993, 1999; 瀬能, 2013)。日本国内では伊豆諸島八丈島・須美寿島、小笠原諸島、和歌山県白浜、大隅諸島種子島、沖縄諸島、および八重山諸島与那国島から記録されている (Katayama, 1975; 石川, 2010; 三浦, 2012; 瀬能, 2013; Koeda et al., 2016; 鍋木, 2016)。本研究によって、新たに鹿児島湾における分布が確認された。

備考 鹿児島湾産の標本は、後鼻孔の最大径が後鼻孔後縁と肉質眼窩間の距離より大きいこと、尾鰭が一様に淡い茶褐色を呈し、幅広い縁取りを欠くこと、前鰓蓋骨隅角部に1棘をそなえること、有孔側線鱗数が63であること、背鰭鰭条数がXI, 14であること、臀鰭鰭条数がIII, 9であること、尾鰭が円形であることなどの特徴が Lee (1990) や Randall and Heemstra (1991), Heemstra and Randall (1993, 1999), 瀬能 (2013) の報告した *E. octofasciatus* の標徴とよく一致したため、本種と同定された。

マハタモドキは背鰭鰭条数がXI-XII, 13-15であること、臀鰭鰭条数がIII, 9であること、尾鰭が円形であること、前鰓蓋骨隅角部に1-4個の鋸歯があること、有孔側線鱗数が107-126であることなどでマハタ *E. septemfasciatus* (Thunberg, 1793) と酷似するが (Randall and Heemstra, 1991; Heemstra and Randall, 1993, 1999; 瀬能, 2013)、尾鰭が一様に暗色であること (マハタでは体長30 cm以上の個体において、後縁が幅広く白く縁どられる)、後鼻孔の最大径が後鼻孔後縁と肉質眼窩間の距離より大きいこと (前者は後者と同大か小さい) により識別される (瀬能, 2013; Figs. 1B, 2)。なお、鍋木 (2016) は種子島東岸に位置する熊野漁港に水揚げされたハタ科魚類1個体の写真をマハタとして報告したが、尾鰭後縁の白色

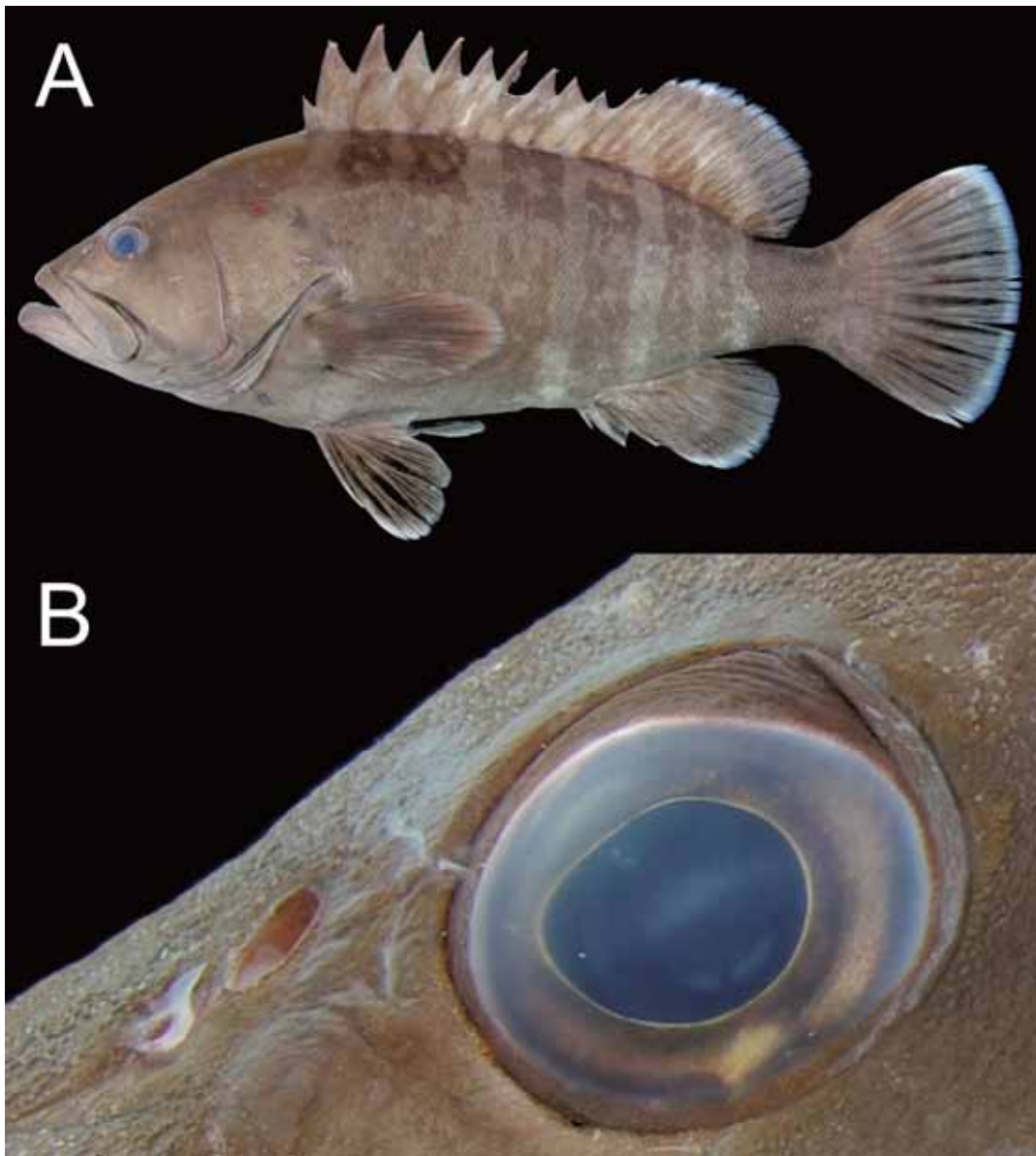


Fig. 2. Lateral views of (A) body and (B) nostrils of fresh specimen of *Epinephelus septemfasciatus* (KAUM-I. 78727, 375.0 mm SL, Yamagawa, Kagoshima Bay, Kagoshima Prefecture, Japan).

の縁取りが極めて細いことから、これはマハタモドキであると思われる。

マハタモドキの日本国内における分布は分布の項で述べたとおりであり、鹿児島湾産の標本は九州沿岸における本種の初めての記録となる。

比較標本 マハタ *Epinephelus septemfasciatus*: KAUM-I. 78727, 体長 375.0 mm, 鹿児島県指宿

市山川港沖(32°12'N, 130°38'E), 2015年9月15日, 釣り(鹿児島市中央卸売市場で購入), 畑 晴陵。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。標本

の採集に際しては、田中水産の田中 積氏ならびに鹿児島市中央卸売市場魚類市場の関係者の皆様に多大なご協力を頂いた。以上の方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は笹川科学研究助成金 (28-745), JSPS 研究奨励費 (DC2: 29-6652), JSPS 科 研 費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業—アジア・アフリカ学術基盤形成型—「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

- 藤原恭司・高山真由美・桜井 雄・本村浩之. 2015. 日本におけるハタ科魚類キテンハタ *Epinephelus bleekeri* の記録と分布状況. タクサ, 39: 40–46.
- Heemstra, P. C. and Randall, J. E. 1993. FAO species catalogue. Vol. 16. Groupers of the world. An annotated and illustrated catalogue of the grouper, rockcod, hind, coral grouper, and lyretail species known to date. FAO Fisheries Synopsis No. 125, (16): 1–382, pls. i–xxxi.
- Heemstra, P. C. and Randall, J. E. 1999. Serranidae, groupers and sea basses (also, soapfishes, anthiines, etc.). Pp. 2442–2548 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H. eds. FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5. Bony fishes part 2 (Mugilidae to Carangidae). FAO, Rome.
- 石川皓章. 2010. 釣りが、魚が、海がもっと楽しくなる! 海の魚大図鑑, 初版. 日本書院, 東京. 399 pp.
- 籾木紘一. 2016. 種子島の釣魚図鑑. たましだ舎, 西之表. 157 pp.
- Koeda, K., Hibino, Y., Yoshida, T., Kimura, Y., Miki, R., Kunishima, T., Sasaki, D., Fukuhara, T., Sakurai, M., Eguchi, K., Suzuki, H., Inaba, T., Uejo, T., Tanaka, S., Fujisawa, M., Wada, H. and Uchinyama T. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. The Kagoshima University Museum, Kagoshima. vi + 120 pp.
- Lee, S.-C. 1990. A revision of the serranid fishes (family Serranidae) of Taiwan. Journal of Taiwan Museum, 43 (2): 1–72.
- 三浦信男. 2012. 美ら海市場図鑑 知念市場の魚たち. ウェーブ企画, 与那原. 140 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Randall, J. E. and Heemstra, P. C. 1991. Revision of Indo-Pacific groupers (Perciformes: Serranidae: Epinephelinae), with descriptions of five new species. Indo-Pacific Fishes, 20: 1–322.
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科. Pp. 757–802, 1960–1971. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.